

# 一人でも多く

震災直後から現在に至るまで、消防・自衛隊・警察などの各機関は、帰りを待つご家族のために懸命の捜索を続けています。



過酷な状況の中強い使命感から捜索を続ける警察機関(愛知県警察)

## 過酷な作業、それでも救いたい、強い使命感

このたびの震災では、消防や自衛隊、警察機関などによる生存者の救出や行方不明者の捜索が行われてきました。

町消防団は、震災直後から、



地元の漁業者との連携による捜索(陸上自衛隊員)

延焼する火災の消火活動のほか、担当する各地区の捜索を行いました。町中ががれきで埋め尽くされる中、一つ一つ手作業で取り除きながらの作業。日中の捜索活動に加え、夜は警戒をしながらくすぶっている火の消火に追われ、疲労が重なります。被災した団員もいる中、それでも団員らの体を動かしてきたのは「これまでも町を守ってきた。大変な状況でも自分たちの手でこの町を守りたい」という強い思いがあったといいます。

山田消防署員は、火災が鎮火した後、救急活動がメインとなりました。3月11日から4月9日までの救急搬送は、通常約3カ月分の162件、搬送は宮古市まで片道3時間近くかかることも。過酷な状況が続き、十分な休息もままならない毎日。それでも使命感を胸に、各県からの応援を受けながら活動を続けました。

山田交番の所員は、地震直後、

避難誘導のため各地区へ向かいました。漁港近くへ向かった所員は、水位の上昇に危険を察知し、様子を見に来ていた人たちに避難を指示し、その後津波が到来。交番も津波の被害を受け、道具も無い中、がれきの中に取り残された人の声を聞き、残ったのこぎりなどをかき集め、火の手がせまる中での救出作業を行いました。

4月からは警戒・巡回が活動の中心となり、各県からの応援部隊とともにパトロールや交差点の交通整理などを行つています。また、8月にも大規模な捜索を行い、今もなお懸命に捜索活動を続けています。

自衛隊は、陸上自衛隊第九特科連隊、航空自衛隊北部航空方面隊などが駐留しました。道路の確保や救出・捜索作業のため、大型の重機を多数投入。支障となる大きながれきの撤去を行いながら、行方不明者の捜索を行いました。特に、がれきが多く



救いたい一心で仲間と協力しながら横倒しとなった車を確認する消防団員



陸中山田駅付近の捜索をする航空自衛隊員



今もなお続けられている大雪りばあねつとによる捜索

残る川の中や沼地などの危険な場所でも、機動力を生かして果敢に挑みました。

## 地元の漁業者と協力し今もなお続く捜索作業

震災後から現在に至るまで、本町で捜索活動を行っている民間の団体があります。

北海道旭川市を拠点に活動するNPO法人「大雪りばあねつと」は、その能力と経験を被災地のために役立てたいと、3月26日に本町に駆け付けました。同団体の主な事業は、北海道の河川の利用や地域の安全に関する活動、災害救助支援活動など。本町では、自衛隊や海上保安庁と連携し、主に海上での行方不明者の捜索を行つています。

海上は、流出したがれきか養殖柵に絡まり、船を思うように進ませることができない状況。地元の漁業関係者とも協力し、がれきを撤去しながら作業に当たりました。

同団体の捜索の主力は、機動力がある小型漁船やボートなど上空で巡回するヘリコプターとも連絡を取り合いながら、捜索を行つています。

現在でも、海底に沈んでいるがれきを撤去しながら、懸命の捜索が続けられています。